

獨逸の關稅政策の當否を判斷するには更に詳細なる専門的(經濟上、技術上)調査に待たざる可からざるも其大體の標準とし目的とする處は上述の根本主義にあるへし。

運 輸

獨逸は鐵道國有の國なり、而して其國有とする理由の第一は統一せる鐵道組織により國民經濟上の福祉を圖るにあり(軍事上の目的は茲に姑く之を除外す)財政上の利益は第二第三の理由なり、而して鐵道官營の純益甚た大にして之に投下せし資本は非常に高率なる利廻となれる筈なり、果して然らば製鐵業の如き國民經濟上重要なる生産業の爲に運賃を低減するは當初の目的に照して正當なる理由あるのみならず、又十分なる餘裕あるなり、況んや其利益を生ずる主たる原因かライン地方に於ける大量貨物の輸送にあるに於ておや、然るに獨逸の實情に就きて之を視るに銑鐵の遠距離運賃は他の諸國に比して尤も重し、但し英吉利及西班牙の鐵鑛運賃は獨逸より較々高しと雖之等二國の鐵鑛は唯短距離輸送にあらされは海上運送に依るを以て鑛物運賃は從來重きをなさしりしなり。此種の鐵道政策に依る製鐵業の保護は獨逸の未だ企圖せざる處にて此點に於ては佛蘭西、白耳義、露西亞等に對してすら一籌を輸するものなり、同國學者、實務家にして近時長距離賃率低減を唱ふる者多き又故ありと云ふ可し。

三、佛 蘭 西

生産額及輸出入狀況(獨逸との鐵鑛供給競争)

年 度	生 産 額	輸 入 額	輸 出 額
一 八 八 八	二、八四二、〇〇〇 <small>噸</small>	一、三二〇、〇〇〇 <small>噸</small>	二、九四〇、〇〇〇 <small>噸</small>
一 九 〇 七	一、〇〇〇、八〇〇〇	一、九九九、〇〇〇	二、二四七、〇〇〇
一 九 〇 八	一、〇〇五、七〇〇〇	一、四五四、三二三	二、三三八三、八七八

鐵と石炭とは密接なる關係を有するは無論なるが今佛蘭西に於ける鐵と石炭との產出狀態を見るに鐵製煉に必要な佛蘭西の產炭地は Nord & Pas-de-Calais にして佛國に於て消費せらるゝ石炭の四割は此地の產出に係る、其他に Nord, Gard, Loire et Saone 等の產炭地あるも云ふに足らず、此の如く佛蘭西にも石炭を産せざるに非ざるも鐵鑛產出額の増加に相應して產炭額を増加し得へしとは如何なる樂觀論者も信ずることを得ざるなり。

佛蘭西の鐵鑛產地中尤も重要なるは Meurthe et Moselle にして、獨逸のルクセンブルグに隣接し Longwy より Nancy に至る一帶の地にして佛の總產額の八割八分を占め、ピレニ、オリエンタル、ノルマンジ、及ブレタン等之に次ぐ。

以上述るか如き地勢と鐵石炭の供給の不權衡なるとの結果鐵道運賃の高率なるに拘らず、鐵鑛產額の大部は獨逸製煉所に吸収せられつゝあり、此顯著なる事實は佛國鑛山に投下さるゝ獨逸資本の巨額なるの事實と對比すれば思半に過るものあり。

佛蘭西政府も亦此悲む可き狀況を座視するに忍ひずとして畫策頗る力むる處ありしも不自然なる努力は自然なる運命を如何ともする事を得ざるを證明するに止りき。

即ち佛國は先づ關稅に種々の區域を設けてノルマンディー、ブレタンの產鑛輸出を制限せんとせり然れとも一、二五フラン以上の關稅は鐵鑛か暴騰せざる限り佛國の鐵鑛採掘を不可能ならしむるものなり。

輸出手數料案も亦提議されたれとも、ケーンの商業會議所は極力之に反對し其成立を見るに至らざりき、蓋し運送の不便なるか爲に佛國製煉所に送鑛すること至難なるに反しカルパド鑛は英國其他交通便利にして石炭に富める地方に於て製煉するを得策とすればなり。

唯ケーンの鑛鑛爐建設事業は當初燃料材の高價なると英國の骸炭はケーンにて二七フラン(勞働の欠乏せると及現在せる鐵鑛の不定なるとの爲に屢々悲境に陥りしも鐵鑛の需要増大すると共に其價格又次第に騰貴し英國の骸炭を有利に利用することを得て頽勢を挽回するに至れり。

然れとも輸出手數料は輸出關稅と共に之を缺く。

佛國の全輸出货量に對するミネットの輸出は年一年と増大して其輸出货量の増加比例より遙に大なるに拘らず使用の爲の輸入の歩合は次第に減少せり。

Meurth-et-Moselle に於ては全然石炭なく從來北部佛蘭西及獨逸より骸炭の供給を仰きしも北部佛蘭西の石炭は其發展の見込少き故獨逸の石炭を多額に輸入せざる可からず、且獨逸のジューセンドルフ、シンジケートの組合員は直接獨逸の製煉事業に利害關係を有するか故にフレイ地方に對して輸送する石炭價格を騰貴せしむることによりてフレイ製煉業の死命を制するに至れり。

石炭供給の不足なる爲過大なる採鑛か佛國々民經濟上不利益なるや明なり、然るに此不利益なる状態は不幸なる勞働状態により益々促進せしめらる、即ち新興の鑛山及製煉事業は佛國自身之を充足するを得ず、外國の勞働者をすら輸入するに至れり、換言すれば佛國技術上、經濟上の狀況はミネットの生産を促し石炭の不足の爲之を内國に於て消化するを得ず、急速度を以て外國に輸出することゝなれり。

此事か公知の事實となるや地下に埋藏せる富源の涸渇散逸を虞れて高率の輸出稅賦課論は再燃せり。

議會の動議により政府は輸出稅の經濟上の結果の調査を Conseil Generale des Mine の委員會に一任せり、其報告に依ればミネットに就ては此種の關稅は佛國にとりて利する處なかるへしと。

此報告かミネット鑛の運輸政策に及ぼしたる影響は頗る大にして同鑛のラインランド輸送に對

する一切の制限は撤廢されたり。

Briey-Andun 15 Roman 線の開通は兩地の距離を短縮し佛蘭西國境停車場迄獨逸のミネット賃率を擴張したる爲アメンヴァイラー、ドルムンドの運送賃は八、九六馬克より六馬克に下落せり。

佛國政府か陰に陽に獨逸の利益を害せんとする目的を以て種々の法規手續を設くる都度ライン河畔の工業者か必ず探る對抗策は獨逸石炭の輸出を困難ならしむるにあり。

獨、佛兩國の製鐵業の競争か如何に落着す可きかは容易に推斷し難きも此競争に於て前者か有利なる點を多く有するの一事は否定し難し。

今其有利なりと思はるゝ事項の内主なるものを擧ぐれば左の如し。

一、獨逸の製煉所は佛蘭西の工場か獨逸の石炭を必要とするか如く佛蘭西のミネット鑛を要せず。

二、ザール及ルールの石炭層は非常に豊富なるものにして外國に多量に輸出するも其富源涸渇することなく、加之之によりて勞働の機會を多くするは却て獨逸に取りて社會上經濟上有利なり。

三、石炭輸送は殆ど舉て獨逸の鐵道に依りて行はる。

四、獨逸の製鐵業者中佛國のミネット採掘權を有する者多し。

(鐵鑛供給に關して獨逸、佛蘭西、二國間の競争は大略上に述べ來りし如くなるか、尙之に關聯して起れる佛國運河工事に關する運動は別に題を更めて之を説くへし)

實に佛國は三十億噸のミネット鑛を包藏し獨逸と相並んで歐羅巴の鐵産國なり、然るに此原鑛は佛蘭西にとりては獨逸のミネットか獨逸に重要なるか如く重要なるものに非ず、何となれば若も獨逸人及び白耳義人か佛蘭西のミネット鑛採掘權を有せすと假定するも、ブレールの鑛層は佛蘭西の鑛

源なると等く獨逸に取りても亦其鑛源たればなり、換言すれば佛蘭西は北亞弗利加殖民地の産額を合すれば歐羅巴の經濟社會に於て最大量の鐵鑛を有するに拘らず、佛蘭西自身の消費額は其巨額の産出に相應するを得ず、獨逸、白耳義、英吉利の資本は佛蘭西の巨大なる地中の富の重要な一部をなせり、此事實は Schneider Cruset の左右する資本と雖も最近十年間に僅かに特種の場合に歐羅巴市場の價格決定に影響を與へたるに過ぎされはなり。

東北運河

ミネット地域の全體の經濟的境界線か獨逸の鐵道運賃の引下とモーゼルザール運河工事により次第にライン下流地及ザール石炭地に移りて佛蘭西中心を遠さかるに至れり。

此形勢に對抗せんか爲に所謂東北運河と稱せらるゝチュンキルフエントブレフエントを連結せんとする運河開鑿運動か再現せらるゝに至れり。

此政府案に依れば運河開鑿の半を利害關係者か支出すへきこと、及ひ之に對し一定の保證金を納付すへきこと之れなり。

此計畫の實施せらるへきや否やは工業者か其巨額の提供を承諾するや否やによりて決せらる、然かも亦此點に關して利害關係者の意見區々に分る。

反對論者の重なる理由とする處は此の如き運河は纔に三百噸の鐵鑛を積載する汽船を通過せしむるを得るに過ぎず、然も此の如き運河は到底鐵道に比して鐵鑛輸送の費用を低廉ならしむ可きものに非すと云ふにあり。

茲に運河の可否に關して更に詳細に論述するの邊なし、唯此種の計畫か政府と人民により眞面目に研究されつゝあるの事實を擧るに止む。

關 稅

佛蘭西に於ては外國鐵は内國鐵と同く一六二六年以來消費者に所謂 “Droit de marque sur le fer” により一種の消費税を賦課せり(普通の鐵には一ツエントナー一〇ス、鋼には一二ス)該消費税は其後屢々改正せられたるも革命時代に到る迄存續せられたり、原料鐵及鍛鐵は同條例により其輸出を禁止せられたるも鋼は刻印を附して之か輸出を許可せり。

コルベールの關税法に於て始て鐵に保護關税を課したるか、同法は今日より之を觀るも頗る適切なものなり、其後數度の革命により其政體か幾多の變遷を経たると等しく其關稅制度も亦種々の變革を見て今日に到れり。

今佛國現行關稅表中其代表的のものに付て之を觀るに大體獨逸よりも重し、又之を同國の銅の保護税と對比するに後者遙に輕し、此銅鐵保護輕重の關係は獨逸に於けると同じきも其程度遙に大なり、之れ兩國の產鑛額に差あるを以てなり。

四、英吉利

自由貿易主義

英國は自由貿易國なり、放任無干涉の國なり、少くとも主義としてはアダム、スミスのドクトリンを實行する國なり、此の如き國に於て保護政策の有無を調査するか如きは木に緣りて魚を求むると一般なり、然も尙此調査に於て英國を研究せんとする所以のものは自由貿易主義は製鐵業の興隆を招來するを得るや、放任無干涉は果して製鐵業の繁榮を永く維持するの道なりや否やを知らんとするか爲なり、茲には此問題を具體的となす爲め自由主義の本に於ける鐵鑛供給の現狀如何を説明するに止めんとす。

英國は他の何れの國よりも近世的大工業の興隆に都合よき條件を具備せり、即ち工業組織の第一材料たる鐵と石炭とに富み、且つ其所在多く互に相隣接して海岸に近く運搬に便利なり、尙西班牙及